

アートミーツケア学会

# 実践研究についての要点整理

2024年7月 中村 美亜 (九州大学)

(2024年3月13日大阪大学COデザインセンターで実施されたアートミーツケア学会「現場のことば、研究のことば」における同名の発表をもとに作成)

# 1. 研究とは

「研究」が何を意味するのかは、分野によってかなり異なっている。以下では、アート実践に関する研究、アート実践に基づく研究、アート現場での研究ということ念頭に、研究アプローチを紹介する。だが、これがこの分野の唯一の研究アプローチだということではない。

# 1.1. 勉強・調査との違い

- 勉強 … 既にあるもの（体系化されたもの）を学ぶこと、習得すること
- 調査 … 何かを明らかにするために、必要なデータ（資料となるもの）を集めること
- 研究 … 未だ明らかにされていないことについて問いを立て、その答えを明らかにすること

## 1.2. 研究とは

「研究」では、答えを出すことと同時に（しばしば「答え」そのものよりも）、**「問い」をうまく立てる**ことが重要。

研究の目的は「証明」することだけではない。曖昧なことや、重要だけどまだよく理解されていないことを説明したり、解決策ではなくても、解決への道筋を示したりすることも目的になる。

# 1.3. 他人と「知」を共有するために必要なもの

1. 背景
2. 目的
3. 意義
4. 方法
5. 結果
6. 考察

before : 先行研究 (+ 先行事例)



研究



after : 新しい「知」が生まれる

料理のレシピのように、データ（材料）と方法（調理法）を丁寧に記述する。これがブラックボックスだと研究にならない。

研究結果（after）を示すためには、研究を始める前の状態（before）を共有することが不可欠。

# 2. 研究の立ち位置と方法論

「研究」を行うにあたっては、自分がどのような「立ち位置」をとるのか、どんな方法を組みあせた「方法論」を用いるのかを明確にする必要がある。

# 2.1. 学術研究

自分が取り組む研究がどちらの潮流に属すかを意識する

- **伝統的な研究** … すでに体系化された学問分野で、新たな知見を加えること。まずはその学問体系をマスターし、未踏の部分を見つけて、その部分を調査研究する（例：歴史資料研究、哲学、理論物理学など）。
- **実践的な研究** … 実際に何かをしている中で問題に感じた「**解決すべき課題**」を**設定**し、それに対する答えを追究する（例：防災学、臨床哲学、工学）。課題に関連した範囲で先行研究・先行事例を学際的に調査することは必要。

# 2.2. 研究のパラダイム

自分がどの立場をとるのかを意識する

- **実証主義**

対象と意味を同一視。対象を客観的（＝第三者的）に捉えることができると思う。

→ 量的アプローチ

- **中間的な立場**

対象の意味はコンテクストに依存。対象をある程度客観的に捉えることができると思う。

考える。見えない「構造」や「しくみ」を重視。

- **構築主義（相対主義）**

対象と意味は同一ではない。対象を客観的に捉えることはできないと考え、人によって異なる

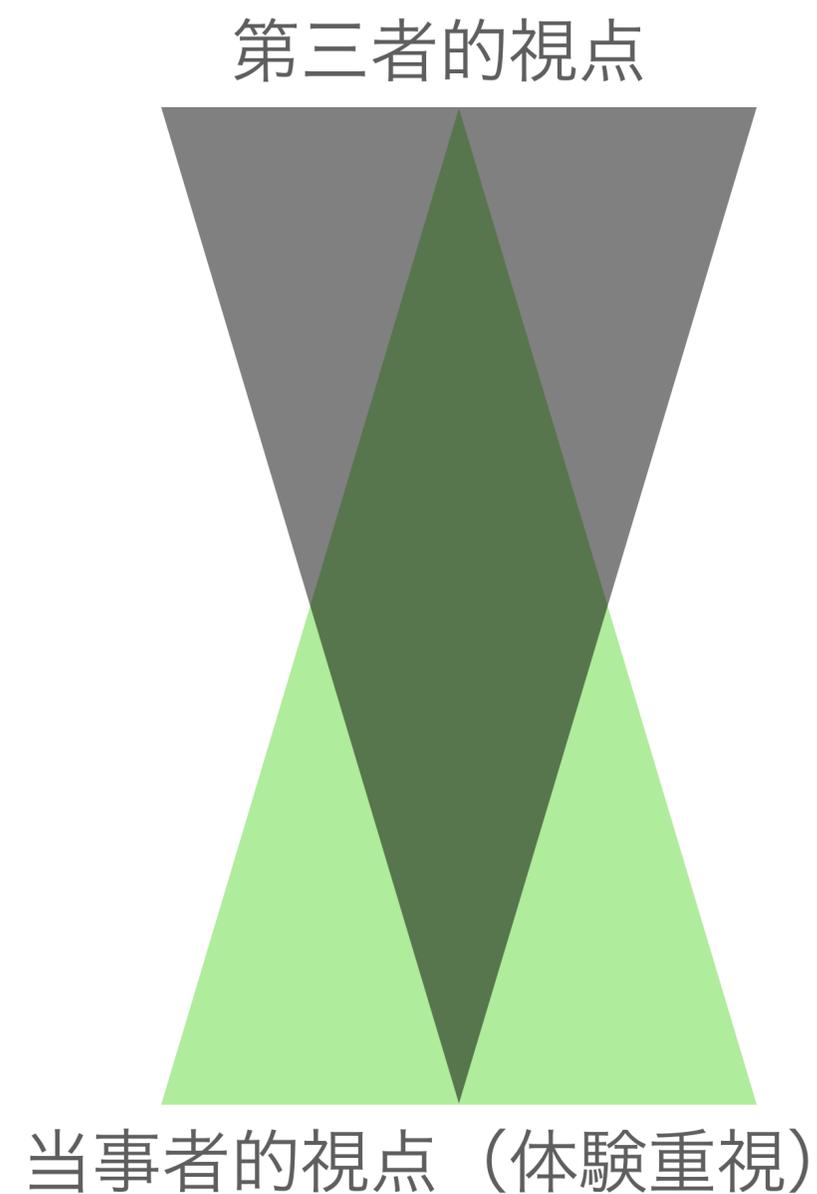
意味づけに焦点をあてる。対象を客観的に捉えることは不可能。→ 質的アプローチ

# 3.3. 研究のタイプ

実践研究では、これらのタイプ（方法）を組み合わせる研究を行う

- 1. 仮説検証研究
- 2. 文献研究
- 3. 理論研究
- 4. 事例研究（実態研究、比較研究）
- 5. 参与観察研究
- 6. アクションリサーチ
- 7. アートベースリサーチ

など



## 2.4. 量的・質的アプローチ

それぞれにメリットとデメリットがある

◆ **量的アプローチ**：数量的データを用い、さまざまな状況に通じる妥当な結論を導き出すこと（幅広さ）を重視するアプローチ。

- 応用可能性を探る → 前提は問わず先に進める
- 全体を把握する
- 相関関係を探る

➡ **再現性・反証可能性が重要**

◆ **質的アプローチ**：非数量的データを用い、特定の状況やケースにおける人間の行動の複雑さ（深さ）を説明するアプローチ。質的データは指標化を通じて数値化することも可能。

- 意味（人間の理解）を問う → 前提自体を問う
- 個別事象の理解を深める
- 因果関係を明らかにする（プロセスやメカニズム）

➡ **手続き的妥当性が重要**

# 2.5. 客観性の序列？

この序列は、薬学・医学の研究には適用可能かもしれないが、実践研究にはあてはまらない。

実践研究で大切なのは、エビデンスの「信頼性」と「活用可能性」（文脈の明示と分析）。

順位	方法論
1	体系的レビュー、メタ分析
2	ランダム化比較試験
3	コホート研究
4	時系列研究
5	統制群のある事例比較
6	横断研究
7	事例研究、プログラム、質的評価
8	経済評価
9	語りのレビュー
10	ポリシーブリーフ、専門家の意見、科学的声明

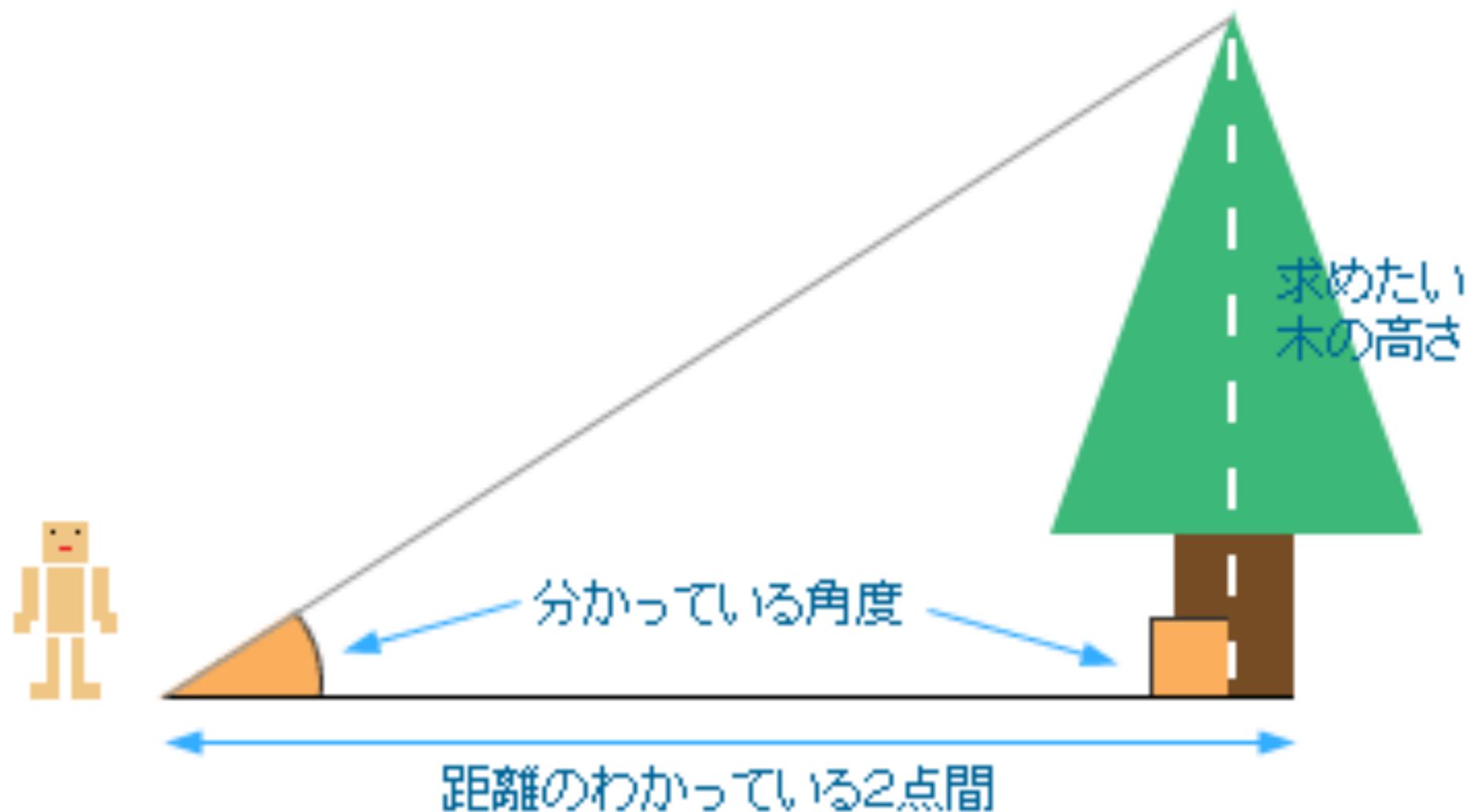
【参考】今田克司・津崎たから・中谷美南子「評価における『エビデンス』の考察—信頼性と活用可能性を巡る議論を中心に」、『日本評価研究』、第24巻第1号、2024年、pp.7-22

## 2.6. 方法論と方法の違い

「方法論」が見つければ、答えを見つけたも同然

- 方法論 … どんな視点から、どんな方法を使って（組み合わせて）アプローチするかという説明
- 方法 … 個別具体的な方法

良質な質的研究は、答えを見つけるために「トライアングレーション」（三角測量）を行う。通常は3つ以上の方法を活用。

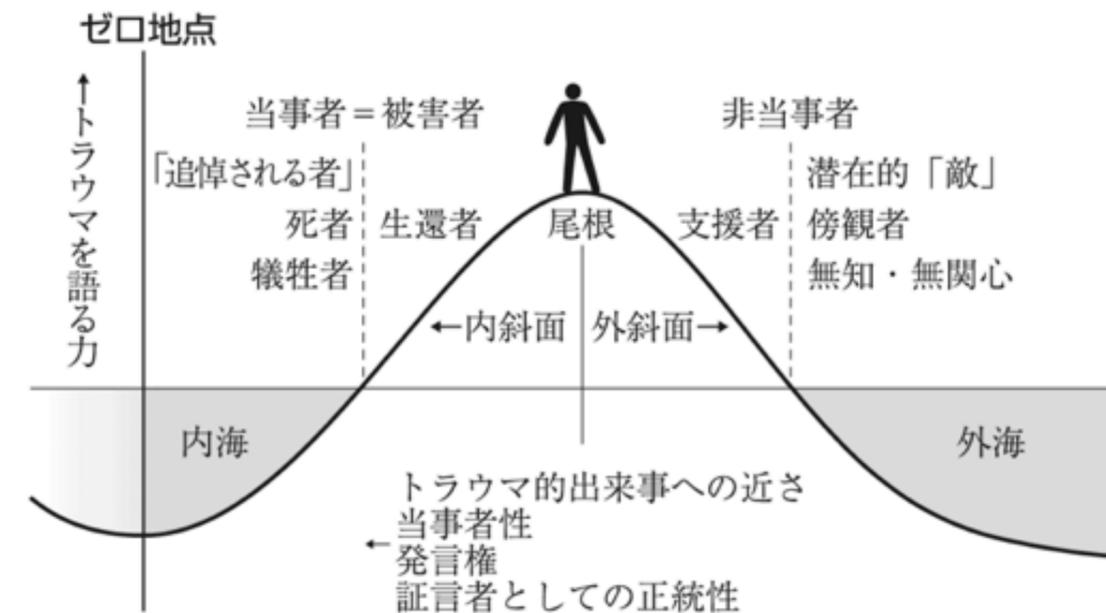
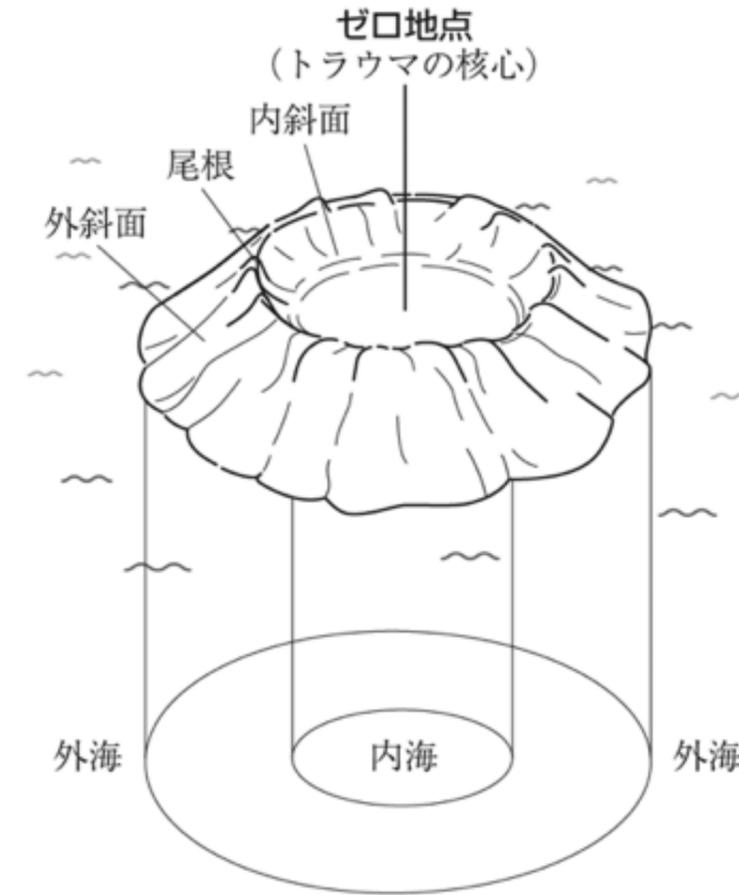


# 3. 最後に

実践研究において、基本となる作業は「翻訳」である。現場では、言語化があまり行われていないために言語化が必要になるが、それだけでは不十分だ。なぜなら、現場にいる人ではなく、現場を体験していない人に伝えなければならないからだ。つまり、二重の意味で翻訳が必要なのである。

# 翻訳としての研究

- ◆ 宮地尚子さんの「環状島」モデルが参考になる。
  - 言語化されていないもの（内海）を言語化し、それをその場にいない人（外海）に伝える。
  - 内海に入らなければ理解できないけれど、外海の人にはその言葉は通じない。
  - だから「翻訳」が必要になる。



(出典) 拙著『震災トラウマと復興ストレス』

図 2-2 環状島の構造(上)と断面図(下)